

第1次佐賀市総合計画

第1次佐賀市総合計画は、本市の目指す将来像を示した「基本構想」とその実現のための具体的な事業を体系化した「基本計画」の2つで構成されます。

■社会潮流の変化■

- 人口構造の変化
- 暮らしの安全・安心の確保に対する意識の高まり
- 産業構造の変化と情報通信手段の高度化・多様化
- 環境問題の顕在化
- 価値観・ライフスタイルの多様化
- 「公共」のあり方の見直し

■基本理念■

- 量的拡大から生活の質の向上へ
- 安全で、安心して暮らせる社会へ
- 自立と自己責任の時代へ
- 知と個性の時代へ
- こころ通わす時代へ

■佐賀市の将来像■ 人と自然が織りなす「やさしさと活力にあふれるまち さが」

8年後、2014年の佐賀市は、経済的、物質的な豊かさのみを追求するのではなく、自然環境の保護や省資源など社会の持続的な発展への貢献が重要視されており、生活のゆとりや精神的な豊かさを大切にする、さらに、質の高い成熟した社会へと向かっています。

あわせて、市民や地域、NPO等の市民団体、企業等が主体的にまちづくりに参画し、市民と行政、個と公共の役割も「共助」と「協働」をキーワードに展開されています。その結果、犯罪や事故の起こりにくい環境づくりや、自然災害など、いざという場合には、行政だけに期待するのではなく、市民も自分たちの手で、生命や財産あるいは社会の安全を守ろうという機運が高まっています。

安心して子どもを生み育てられる環境づくりや、年齢や事故、病気などの理由で日常生活に不自由のある人も、地域やNPO、ボランティアの活動によって、生活のさまざまな場面で人の温かみややさしさを感じながら、住み慣れた地域で安心して暮らしています。

また、市民はそれぞれの価値観を大切にしながら、働き、学び、家庭や地域で、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

特に“学び”の面では、子どもたちは、楽しく学校に通い、また、団塊の世代をはじめ、豊富な経験を持つ市民や企業が、“生涯学習”の担い手として活躍しており、市民は世代にかかわらず、いつでも新たな知識や教養を身に付けることができます。

自分の可能性を広げようとする市民が増え、職場や学びの場でお互いの個性を認め合い、刺激し合うことにより、企業やNPOは、新しい発想でサービスを生み出しています。

また、地域では、多くの市民が主体的に地区の行事などの活動に参加することで、地域の絆が深まり、佐賀市は活力のある個性的なまちとして広く知られ始めています。

このような、個性的で活動的なまちの姿にひかれて、あるいは、豊かな自然や歴史・文化に魅了されて、佐賀市を訪れる人や移り住む人が増え、まちはさらに賑わい、新たな刺激や可能性が生まれ、佐賀市は“やさしさと活力にあふれるまち”となっています。

佐賀市の将来像実現のためには、行政をはじめ、市民や地域、NPO等の市民団体、企業等が、それぞれの自立や自己責任を重視する一方で、まちづくりに主体的に参画していく必要があります。

行政は、そのための仕組みづくりやコーディネートを行うなど、しっかりとその責任を果たします。

■政策展開の基本方向■

- 佐賀の個性を生かした魅力ある地域産業の実現
- 地域で安心して生活できる社会の実現
- 自然と調和した個性的な美しいまちの実現
- 豊かな心を育み、楽しく学習できる社会の実現
- 地域経営の推進

■総合計画を推進するに当たっての基本姿勢■

- 協働によるまちづくりの推進
- 男女共同参画社会の実現
- 行政経営の有効性と効率性の追求
- 福岡都市圏を意識したまちづくりの推進

基本構想

基本計画